

平成25年度広島県体育施設研究協議会

「スポーツボランティアの現状と可能」 ～スポーツ施設を拠点とした活動事例も紹介～

工藤 保子

(笹川スポーツ財団)

2014.1.24 15:00~16:30



本日の研修会の内容

- スポーツボランティアの位置づけ・定義・分類
- データでみるスポーツボランティアの現状
- スポーツ施設を拠点とした活動事例

- 質疑応答



スポーツへの関わり方

<スポーツライフ>

1. 「する」……スポーツ参加・実施
2. 「みる」……スポーツ観戦
3. 「ささえる」…**スポーツボランティア**



なぜ、今、スポーツ・ボランティア？

(位置づけを確認)

スポーツ界の法律等の流れ

- 1961年 「スポーツ振興法」
- 1998年 「スポーツ振興投票の実施等
に関する法律」
- 2000年 「スポーツ振興基本計画」
- 2010年 「スポーツ立国戦略」
- 2011年 「スポーツ基本法」
- 2012年 「スポーツ基本計画」
- 2015年 「スポーツ庁」(予定)





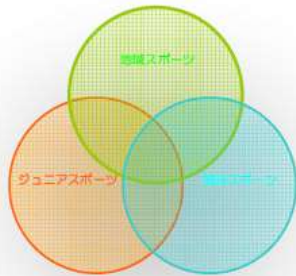
スポーツ基本計画 (2012.03.30)

- 「スポーツボランティア」文言：**14カ所**で使用
- 第3章 今後5年間に取組むべき施策
 - 2.(1)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
 - ③今後の具体的施策展開：
 - (**スポーツボランティア活動の普及促進**)
 - 国は**、活動に関する国民の関心を高める。
 - 地方公共団体は**、貢献がある者の功績を称える。
 - 地方公共団体やスポーツ団体等は**、参画環境を整える

新広島県スポーツ振興計画

新広島県スポーツ振興計画

「親しむ」「育てる」「極める」
スポーツの振興



平成18年4月
(平成23年2月改訂)

広島県教育委員会

- 文言・・・「ボランティア、支える」
「スポーツを支える人」: 計5カ所

第3 基本理念

- ・支えるスポーツ

第4 豊かなスポーツライフの実現

- ・スポーツを支える

<サポート体制の構築>

- ・スポーツを支える人、地域の体
体制づくり、ボランティアの育成



定義：ボランティアとは

- 「個人の自由意志に基づき、その技能や時間等を進んで提供し、社会に貢献すること」
- 特徴：**自発性**（自由意志に基づく）
無償性（無給の活動）
公共性（公益的活動）
先駆性（発展的活動）

（文部省生涯学習審議会,1992）



定義：スポーツボランティア

- 「地域社会やスポーツ団体・クラブ、各種スポーツイベントなどにおいて、個人の自由意志に基づき、その技能や時間などを進んで提供し、社会に貢献する活動」と定義される。
(文部省,2000)
- 「スポーツ」という文化の発展のために、金銭的報酬を期待することなく、自ら進んでスポーツ活動を支援する人のことである。
(日本スポーツボランティア学会,2004)



スポーツボランティアの活動分類

<3分類>

- イベント・ボランティア
- クラブ・団体ボランティア
- アスリート・ボランティア

(SSF笹川スポーツ財団「スポーツ白書」,2011)

1. イベント・ボランティア

非日常空間・不定期的

国際スポーツ大会、地域スポーツ大会等

一般ボランティア

給水・給食、案内・受付、記録・掲示、

交通整理、運搬・運転、ホストファミリー等

専門ボランティア

審判員、通訳、医療救護、データ処理等

出典：SSF笹川スポーツ財団「スポーツ白書」2011より作成

イベント・ボランティア





イベント・ボランティアの数

- ユニバーシアード神戸大会(1985) 8,300人
- 長野冬季オリンピック(1998) 32,579人
- かながわ・ゆめ国体(1998) 5,831人
- FIFAワールドカップ(2002) 28,729人
- ロンドン五輪・パラリンピック(2010) 70,000人
- 東京マラソン(2013) 10,000人
- 湘南オープンウォータースイミング(2013) 700人

2. クラブ・団体ボランティア

定期的活動

地域のスポーツ団体・クラブ等

ボランティア指導者

指導、審判、アシスタント等

運営ボランティア

事務、役員、会計、機関誌・HPの作成等

クラブ・ボランティア





事例：クラブ・ボランティア

- 日本スポーツ少年団

登録指導者 約20万人（平成24年度現在）

1団あたりの指導者登録数 平均5.6人

- 総合型地域スポーツクラブ

1クラブの指導者 平均21人（平成23年文科調べ）

21人 × 2,480クラブ = 約5万2千人

（※有資格者の47%、無資格者の63%は手当なし）

3 アスリート・ボランティア

トップアスリート・スポーツ団体による活動

ジュニアの指導、施設訪問、地域イベントへの参加など

出典：SSF笹川スポーツ財団「スポーツ白書」2011より作成

アスリート・ボランティアの事例

- プロ野球、Jリーグ、bjリーグによる教室開催
- NPO法人MIPスポーツプロジェクト

代表:倉石平(バスケットボール初のプロ監督)

- トップス広島: **8競技9団体**

(NPO法人広島トップススポーツクラブネットワーク)

サンフレッチェ広島(サッカー)、JT(バレー)、広島ガス(バドミントン)、
湧永製薬・広島メイプルレッズ(ハンドボール)、
NTT西日本(ソフトテニス)、中国電力(陸上)、
広島東洋カープ(野球)、コカ・コーラ(ホッケー)



アスリート・ボランティア



福岡・新宮町でソフトバンク野球教室

小中学生69人参加

鷹OBら指導
 ホークスOBによる福岡ソフトバンクホークス野球教室が17日、福岡県新宮町のグラウンドで開かれた。同教室にはフレッシュリーグ・福岡ライナースの小、中学部の計69人が参加。ホークスOBで野球評論家の山内孝徳、カズ山本両氏の指導に熱心に耳を傾けた。

同教室は球団に今年1月から新設された野球振興部による取り組みで、4月の沖縄に続き、九州・沖縄では2回目。この日は山内氏が指導する投手とカズ山本氏による野手とに分かれ、約2時間の指導を行った。

参加した福岡ライナース中学部の西村洋平主将は「プロの方は話がわかりやすいし、面白かった。将来はプロ野球選手になりたい」と目を輝かせた。



「野球教室で打撃を指導するカズ山本さん(右)」

球団は野球の発展・普及を目的とした特定非営利活動法人(NPO法人)「ホークスジュニアアカデミー」(校井輝秀理事長)設立を申請中。野球振興部長でもある同理事長は「将来は教室を月に4回ぐらい開けるようにしたい」と語った。

アスリート・ボランティア



一般社団法人アスリートソサエティ

日本のスポーツを変革する選手共同体
為末 大 / (第1期)



スポーツボランティアの現状把握 「スポーツライフ・データ2012」

調査対象 : 全国市区町村に居住する
満20歳以上の男女

調査時期 : 平成24年6月22日～7月22日

調査方法 : 訪問留置法による質問紙調査

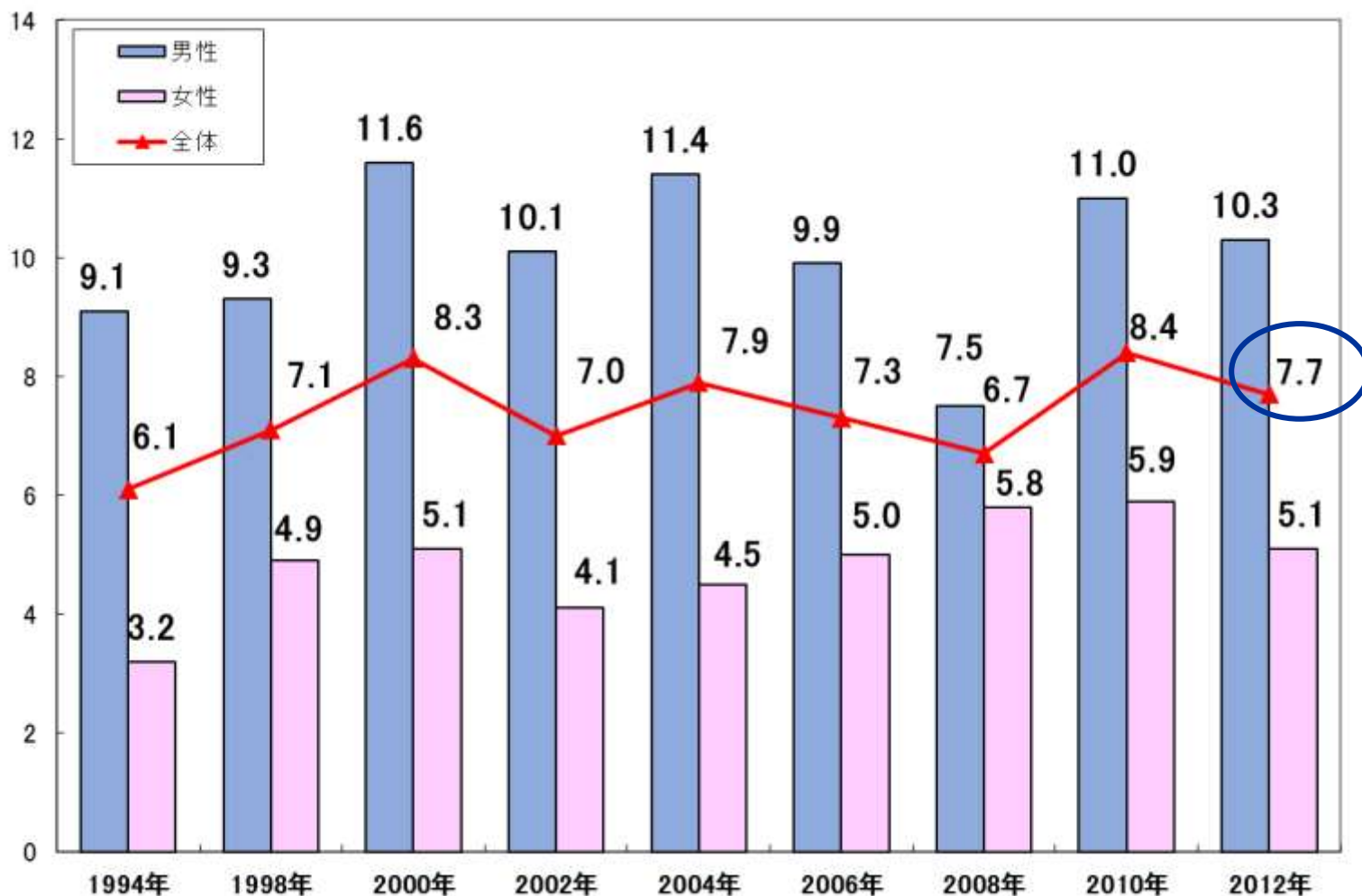
抽出方法 : 割当法(クォーターサンプリング)

回収数 : 2,000人

調査内容 : 運動・スポーツ実施率、クラブ加入率、直接スポーツ
観戦率、スポーツボランティア実施率 等

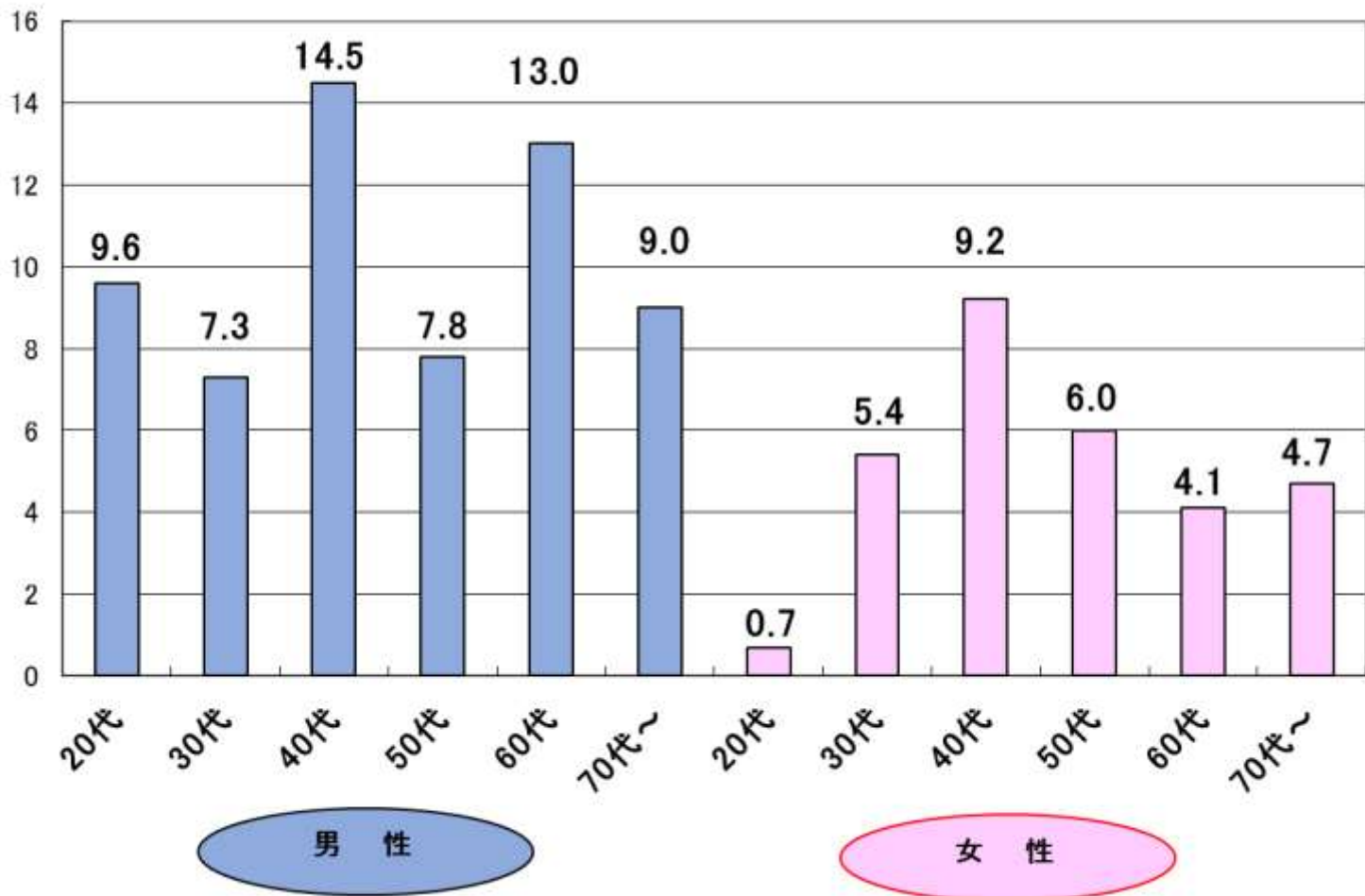


スポーツボランティア実施率(成人)



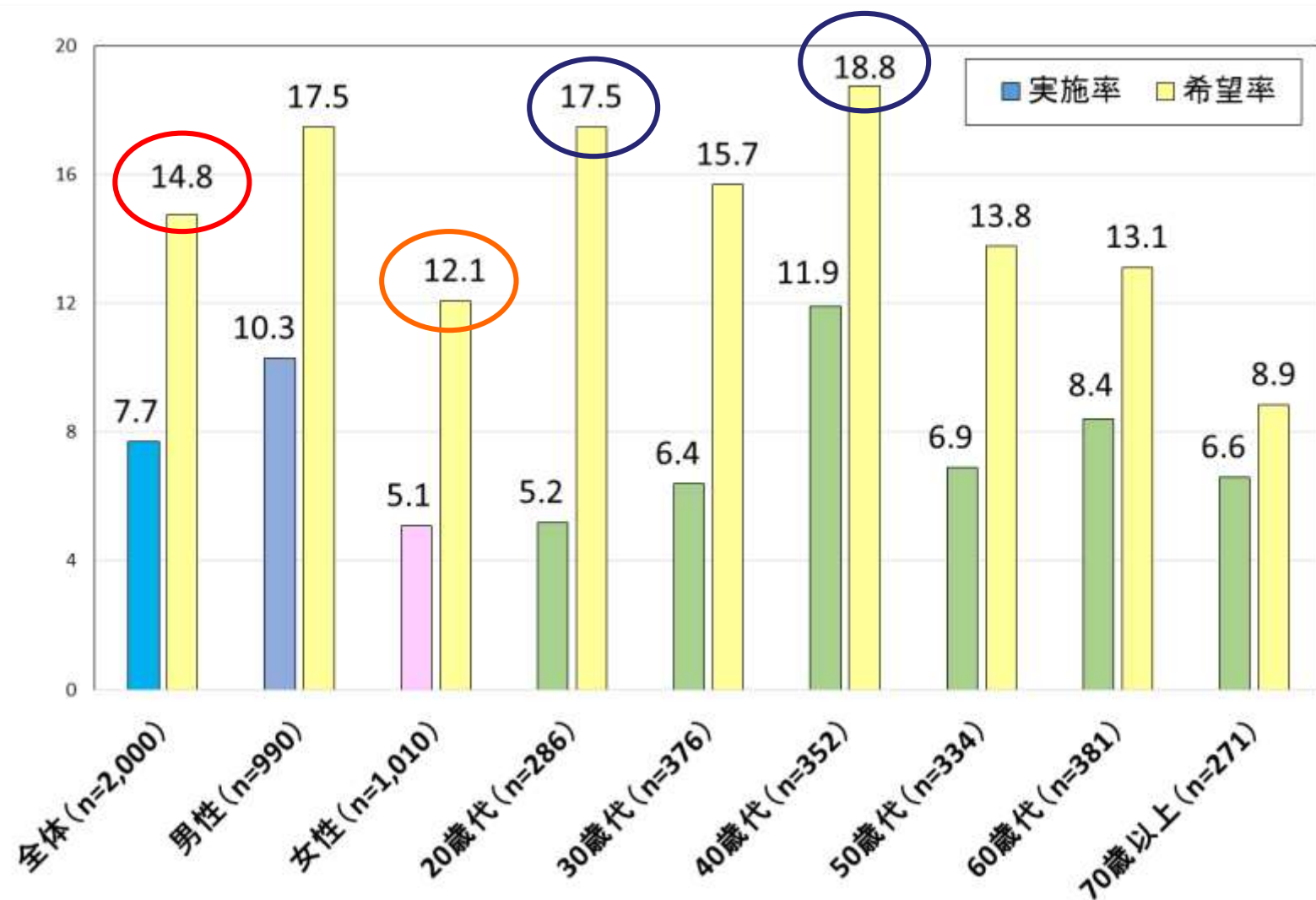
出典:SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

スポーツボランティア実施率(成人)



出典:SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

成人のボランティア実施率・希望率



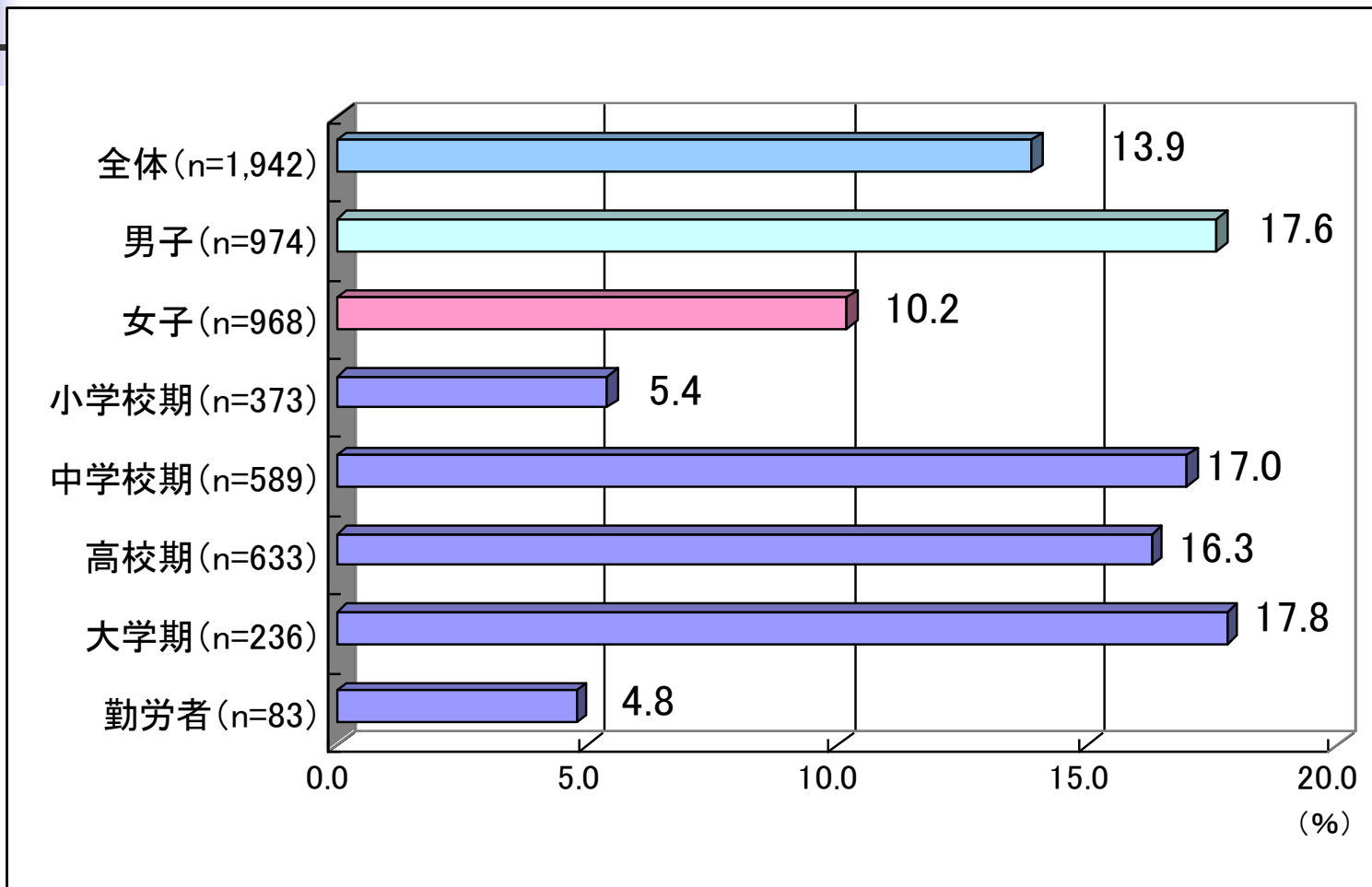
出典: SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

成人のスポーツボランティア 活動内容・希望内容

スポーツボランティア活動の内容		実施率 (%)	実施回数 (回/年)	実施希望率 (%)
日常的な活動	スポーツの指導	41.6	40.3	22.1
	スポーツの審判	29.9	13.2	11.7
	団体・クラブの運営や世話	39.6	23.2	30.7
	スポーツ施設の管理の手伝い	12.3	11.4	19.0
地域の スポーツイベント	スポーツの審判	21.4	6.8	7.2
	大会・イベントの運営や世話	46.1	2.9	57.9
全国・国際的 スポーツイベント	スポーツの審判	3.9	3.2	1.7
	大会・イベントの運営や世話	9.7	1.9	15.5

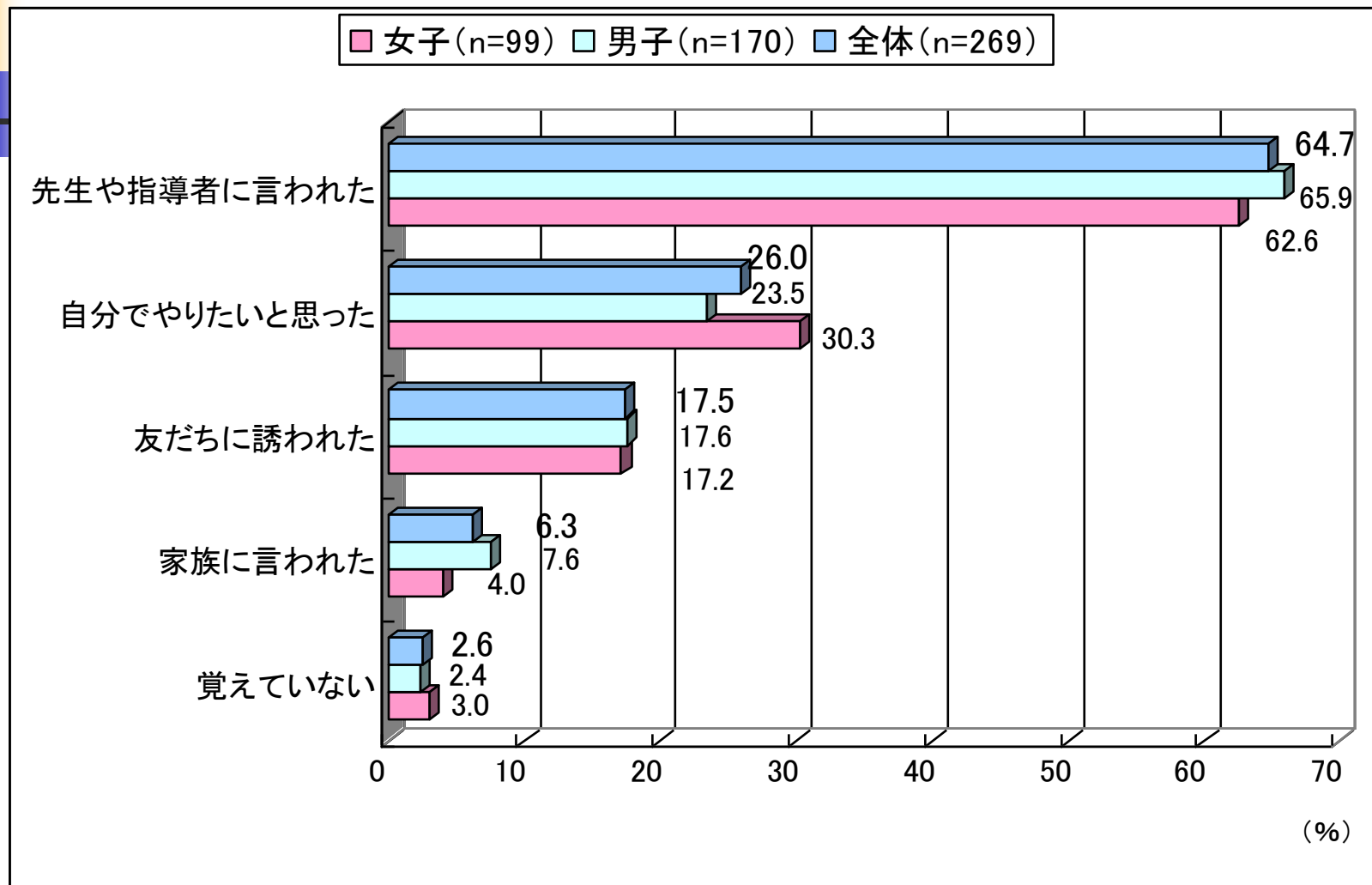
出典：SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

10代のスポーツボランティア実施率



出典:SSF笹川スポーツ財団「10代スポーツライフに関する調査」2012

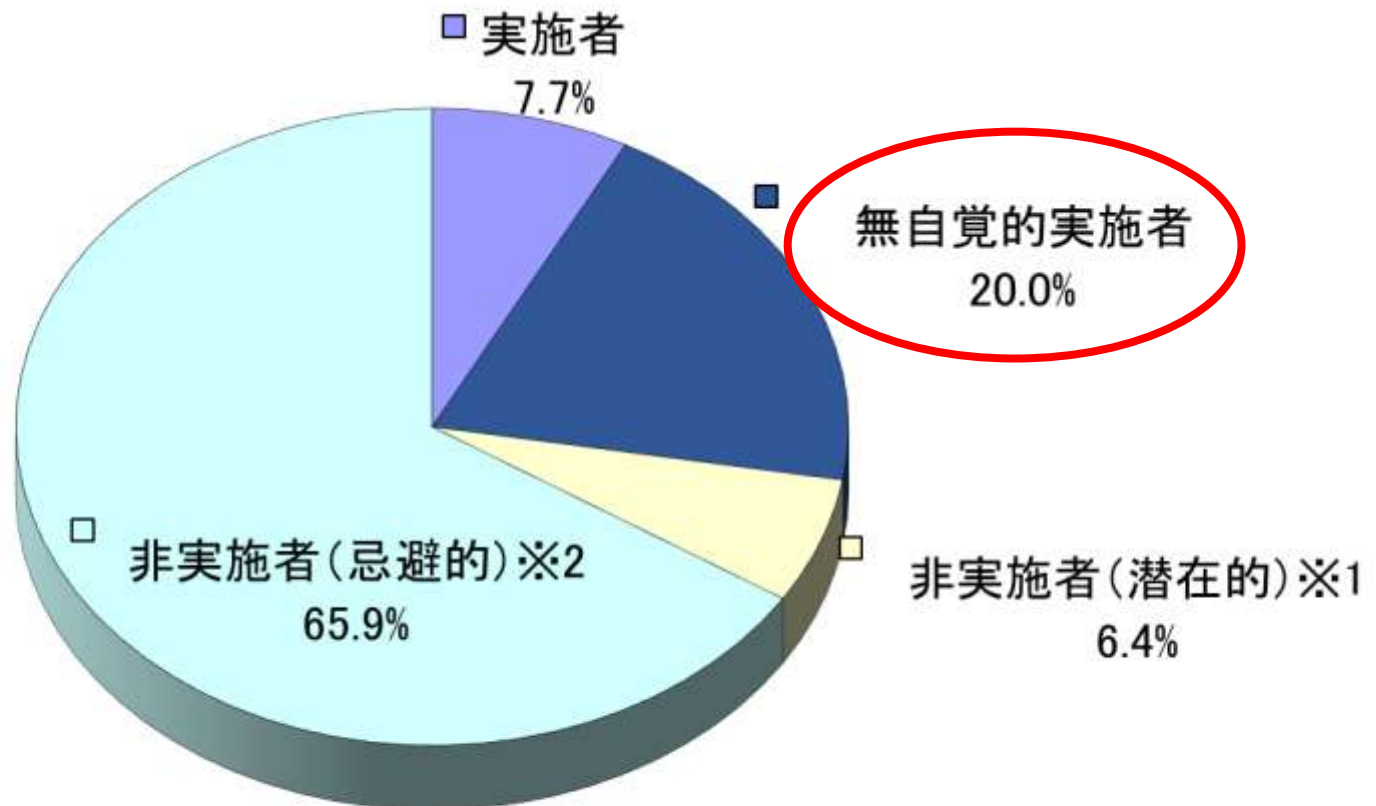
10代のボランティア活動のきっかけ



出典:SSF笹川スポーツ財団「10代スポーツライフに関する調査」2012

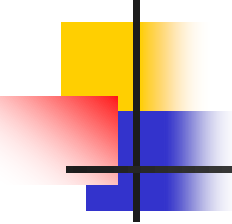
スポーツライフ・データ2012

スポーツボランティア 実は3割



※1非実施者「潜在的」とは、今後の実施を希望する非実施者

※2非実施者「忌避(きひ)的」とは、今後の実施も希望しない非実施者



データでみるスポーツボランティア

■ 成人(2012年)

7.7% 男性(10.3%) 女性(5.1%)

実施希望率 **14.8%** 無自覚的实施者 **20.0%**

<希望内容>

1位 「地域のスポーツ大会・イベントの運営や世話」 57.9%

2位 「日常的な団体・クラブの運営や世話」 30.7%

3位 「日常的なスポーツの指導」 22.1%

■ 10代(2012年)

13.9% 男子(17.6%) 女子(10.2%)

実施希望率 **22.1%**



スポーツライフの現状でみると

	成人	10代
■ するスポーツ		
年1回実施	7割	8割
週2回以上	5割	7割
■ みるスポーツ		
直接スポーツ観戦	3割	5割
■ ささえるスポーツ		
スポーツボランティア	7.7%	13.9%



スポーツ・ボランティアの現状

- スポーツの「する」「みる」活動より低い割合
- 活動内容として「地域のスポーツ大会・イベントの運営や世話」人気、きっかけにもなる
- スポーツボランティアに対する理解・認識がまだまだ不足！ 自覚していない活動者2割



事例紹介

スポーツ施設を拠点に活動する
スポーツボランティア団体



わが国の スポーツボランティア団体数は？

- 合計：**160団体** 把握済み

NPO・非営利団体	52団体
行政管理団体	13団体
トップスポーツ関連	82団体
国体関連	13団体

(笹川スポーツ財団調べ2013)

事例紹介

施設に関連したスポーツボランティア

- ①日産スタジアムボランティア
- ②スポーツサポーターバンク
(公財)藤沢市みらい創造財団
- ③グランディ・21ボランティア 他

事例：日産スタジアムボランティア

- 2002年W杯に向け、1998年募集、1999年結成
スタジアム登録制のボランティアとして先駆的
- 登録者数：257名
(運営ボラ-232名、見学ボラ-25名)
- 活動内容：日産スタジアムでのイベントの手伝い
- 活動実績：年間35日、1日30~130人が活動

スタジアムボランティア



事例：日産スタジアムボランティア

- 参加資格：高校生以上。土・日・祝日活動可能。
登録更新は1年ごと。
- 待遇(特典)：IDカードの発行
ユニフォーム貸与(帽子、ポロシャツ等)
活動時に交通費1,000円
時間により食事の提供



事例：日産スタジアムボランティア

- スポーツボランティア事務局：
スタジアム職員（1名）
ボランティア代表（7名）←1年間委嘱。無償
年間の活動調整、参加メンバーの調整、
活動日の準備、登録更新事務
- 運営工夫：部会活動（自発的な活動を尊重、活性化も）
リーダー、研修、イベント企画、環境・美化、情報
親睦会、ボランティアだよりの発行
- 予算：約100万円（ユニフォーム代除いて）



事例：日産スタジアムボランティア

- ボランティアAさんの活動歴：
 - かながわ・ゆめ国体
 - 厚木市マラソン大会
 - 2005長野スペシャルオリンピック
 - 視覚障害者と共に、登山、カヌー、スキーなど
 - 湘南オープン・ウォータースイミング
 - 東京マラソン2007～



事例：スポーツサポーターバンク

(公財)藤沢市みらい創造財団

- 2010年事業開始
 - 市内スポーツ施設を拠点として
 - 「みる・する・ささえる生涯スポーツ」をモットーに
- 登録者数：215名（学生～高齢者）
- 活動内容：財団や藤沢市主催のスポーツ大会・イベント・教室等の運営スタッフ。
- 待遇（特典）：活動終了後に1,000円（交通費含）

事例：スポーツサポーターバンク (公財)藤沢市みらい創造財団

- 登録から活動まで：
「体験参加」制度あり。その後、活動へ。
- 登録期間：3年間。活動経験者は自動更新。
- 保険：財団として傷害保険に加入



事例：スポーツサポーターバンク

(公財)藤沢市みらい創造財団

■ 協力依頼事業例：

「スポーツ&ハートフルフェスタ in 秩父宮記念体育館」

2013年10月14日(月祝)：協力依頼 20人程度

「ふれあいスポーツ交流会ローリングバレーボール」

秋葉台文化体育館

2013年11月9日(土)：協力依頼 20人程度

■ 今年度：13回、15施設、約120人協力依頼予定

事例：その他

グランディ・21ボランティア



- 宮城スタジアムを中心に、2004年活動開始
官設民営施設型ボランティア組織
- 年間活動人数:36日、述べ436人
- 年間活動予算:約85万円
- **チョイボラ**(ボランティア体験)制度あり:
中・高生対象。4日程度。活動証明書発行。



東日本大震災時に、非常体制となった
宮城スタジアムをサポート

都道府県のスポーツボランティアバンク・登録制度の設置状況(2013)

都道府県	名 称	設置年	登録者数 (2013)	運営主体	設置経緯・目的等
京都府	京都府立体育館スポーツボランティア協議会 「はぐくみ」	1999	23	任意団体	スポーツボランティア養成講座の修了者を組織化
大阪府	モッピークラブ	1999	258	自治体	国体(1997)のボランティアを組織化
山口県	山口県スポーツボランティアリーダー	2002	1,848	自治体	国体(2011)に向け、県でスポーツボランティアリーダーを養成し組織化
宮城県	グランディ・21ボランティア	2003	101	任意団体	FIFAワールドカップ日韓大会(2002)のボランティアを組織化。県総合運動公園(グランディ・21)で活動
神奈川県	NPO法人 かながわスポーツボランティアバンク	2003 ^{※1}	127	NPO法人	国体(1998)のボランティアから自主運営組織へ
愛媛県	愛媛県地域スポーツボランティア・ネットワーク	2003	39	スポーツ 振興事業団	地域スポーツクラブの運営スタッフの確保
和歌山県	和歌山県スポーツボランティアバンク	2004	131 ^{※2}	体育協会	「県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会」のボランティアを中心に登録制度を開始
福島県	NPO法人 うつくしまスポーツルーターズ	2005	141	NPO法人	日本スポーツマスターズ(2004)のボランティアを組織化。2007年より自主運営組織に
佐賀県	佐賀県スポーツボランティアバンク	2006	377	自治体	高校総体(2007)に向け、募集したボランティアを組織化
埼玉県	埼玉県スポーツボランティア	2008	5,572	自治体	国体(2004)のボランティア、スポーツ推進委員などの個人・団体登録
徳島県	とくしまスポーツすだつネット	2008	255	スポーツ 振興財団	既存イベント充実のための人材確保
宮崎県	宮崎県スポーツボランティアバンク	2009	57	自治体	1989年設立の指導者バンクに日本スポーツマスターズ(2001)のボランティアを加えて再編成
三重県	みえのスポーツ応援隊	2012	343	自治体	新規イベント開催のための人材確保

※1:1996～2003年までは神奈川県が運営

※2:2012年度の登録者数

SSF「スポーツ振興に関する全自治体調査」(2013)より作成

政令指定都市のスポーツボランティアバンク 登録制度の設置状況 (2013: 笹川スポーツ財団調べ)

都市名	名称	設置年	登録者数 (2013)	運営主体	設置目的
札幌市	地域スポーツマスター 活用事業ボランティア	2013	8	自治体	地域スポーツの活動 支援
さいたま市	さいたま市 スポーツボランティアバンク	2009	9,164	自治体	国体で募集したボラ ンティアの組織化
名古屋市	スポーツイベント・ボランティア	2005	301	自治体	既存イベント充実の ための人材確保
大阪市	大阪市スポーツボランティア	2002	290	自治体	国体で募集したボラ ンティアの組織化
堺市	堺市 ボランティアスポーツ指導者会	1977	104	振興事業団	全市的事業への運営 協力・補助、地域や 職場のレク活動指導
広島市	広島市 スポーツイベントボランティア	2001	250	市スポーツ協会	既存イベント充実の ための人材確保
福岡市	スポーツボランティア	2005	72	市スポーツ協会	—

事例：広島市

スポーツイベントボランティア

- 登録者数：250名（2013年現在）、18歳～70歳代
- 活動内容：市内開催のスポーツイベントを支える
サンフレッチェ広島、広島東洋カープが9割
- 活動実績：年間102回、延べ2,518人が活動
広島国際ハンドボール大会、
市のスポ・レクフェスティバルなど（H24年度）



スタジアムツアーの案内

主管：（公財）広島市スポーツ協会

事例：広島市

スポーツイベントボランティア

- 設立経緯：2000年Jリーグの試合をサポートする「ビッグアーチボランティア（現エディオンスタジアム）」スタートは「**施設型**」のボランティア
- 待遇（特典）：特に無し
ボランティア依頼主がウェアを貸与し、お弁当やクオカード（**1,000円**）を支給。
- 年間予算：切手代などの通信費程度



ボランティアが関わってくれと・・・

- 施設やイベントのファンとなり、翌年も関わってもらえる。
- 友人・知人などを巻き込んで参加してくれる。
- 昨年の経験を踏まえて自発的に行動してくれる。
- 事前準備から運営に関わってくれるようになる。

等々



ボランティアを依頼するにあたっての 留意事項

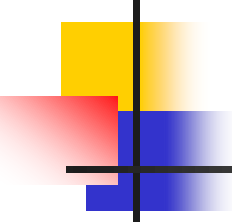
- **スポーツボランティアとアルバイトは違う**
「報酬」の代わりに「やりがい」を
安い労働力ではないことを認識
- 活動内容は明確にしなければならない
- 個人情報取り扱いに注意する
- 管理者側が保険に加入する(個人にも促す)
- 感謝の気持ちを忘れない 等々



ボランティア運営の留意点

- 活動内容の明確化、可能なら活動希望を聞く
初参加者は、ふれあいの多い担当部署に配置
- 事前の活動説明は明確に。
活動説明会・マニュアルの配布も有効
- 連絡系統の明確化
危機管理・質問対応等
- ボランティアの経験値を考慮
ボランティアリーダーの養成・配置

等々



まとめ：スポーツボランティア

- スポーツボランティアは**スポーツ振興**に無くてはならない存在である
- スポーツボランティア活動は**多様**である
- 既に**スポーツ施設**で沢山のスポーツボランティアが活躍している
- スポーツボランティアに対する**正しい理解・認識**を広げ！ **活動の機会**を創出・提供していただきたい！

平成25年度広島県体育施設研究協議会

「スポーツボランティアの現状と可能」 ～スポーツ施設を拠点とした活動事例も紹介～

スポーツボランティアを考える・取組む際の

ヒントが1つでもあれば、幸いです。

<ご清聴ありがとうございました>